

## 令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○柔軟で多様な学びのシステムを活かした教育活動を推進する。 ○学ぶ大切さと、学ぶ楽しさを経験させる。	①教育課程を適切に運用し、柔軟な学びのシステムの有効活用を目指す。 ②課程間で連携しながら、1人1台端末の利活用を促進し、学ぶ大切さと、学ぶ楽しさを経験させる授業研究の推進、授業環境の整備を行う。	①課程間併修等の多様な学びのシステムの有効的な活用について検討する。 ②課程や教科を超えて情報共有を行い、学ぶ大切さと、学ぶ楽しさを経験させる授業改善に組織的に取り組むことができたか。	①教育課程の適切な運用ができたか。課程間併修等の有効的な活用ができるか。 ②課程や教科を超えて情報共有を行い、持続可能な授業改善に組織的に取り組むことができたか。	①多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現に向けて個別学習支援制度の運用を検討し教務内規を改訂した。 ②課程共通の公開授業研究会を実施し、課程を越えて授業について考える場を創ることができた。 ③課程ごとに議論を深めたうえで、学校全体で問題解決に取り組むのがよいのではないか。	①三課程で協働し柔軟で多様な学びのシステムを活かし、生徒が抱える多様な課題に対応する有効な手法を検討していく必要がある。 ②三課程共通の公開授業研究会を実施し、課程を越えて授業について考える場を創ることができ、有意義な時間となったが、課程間での実情の相異があり、別に行うことも検討する余地がある。	①ICTの活用がよりよい学習効果につながっている。ユニバーサルデザインの工夫が評価できるが、より一層の教員の意識改革は必要だと感じる。 ②公開授業研究会はいい企画だが、課程間の実情の相異がある。まず、課程ごとに議論を深めたうえで、学校全体で問題解決に取り組むのがよいのではないか。	①個別学習支援制度を効果的に活用できるよう、より一層、三課程の生徒情報を共有していきたい。令和8年度入学制の教育課程について検討を進めた。 ②三課程共通の公開授業研究会を実施し、課程を越えて授業について考える場を創ることができ、有意義な時間となったが、課程間での実情の相異があり、別に行うことも検討する余地がある。 ③三課程共通の公開授業研究会について、今年度の成果と課題を踏まえ、来年度は課程ごとで議論を深めることに注力する。
2	生徒指導・ 支援	○誰もが自分らしく過ごせる安全・安心な学習環境を実現する。 ○生徒の主体的な活動を充実させ、協働する力と自己肯定感を養う。	①安全・安心な学校生活を目指すと同時に、教育相談と支援体制の充実を図る。 ②命を大切にする意識を高める。 ③生徒会活動および委員会活動の活性化を図り、その活動から生徒が達成感を得られるよう支援する。	①基本的生活習慣の定着と規範意識の向上を図ると共に、生徒情報の共有とSC・SSWの活用を促す。 ②交通安全に対する取り組みが進んだか。 ③生徒会活動および委員会活動の企画運営ができるよう環境作りをする。また、三課程で協働し、生徒が主体的に運営する文化祭を支援できたか。	①生活上の問題行動やマナー違反が減少したか。また、生徒情報の共有とSC・SSWを着実に活用した。職員人権研修を実施し人権感覚を高めた。 ②自転車の安全点検やヘルメット着用を呼びかけた。美術部作成の交通安全ポスターを掲示し意識を高めた。 ③スポーツ大会を生徒主体で運営し、三課程共催の文化祭は来場者が1800名であった。また生徒会主導で「朝のあいさつ運動」を2回実施した。	①問題行動件数が減少傾向にあることから問題行動の未然防止を図り、校内外の巡回や啓発活動に努めた。また引き続き生徒の情報共有を図り、SC・SSWの積極的に活用していく。 ②次年度は交通安全の地区幹事校となるため、十分準備を進める。ヘルメット着用率が低い現状に鑑みヘルメット着用者の増加を目指すとともに交通安全意識の向上を図っていく。 ③部活動等、生徒の主体的な活動がまだ少ない。これを教員がバックアップしていく必要があるのではないか。	①後期などに生徒の足が学校から遠のく傾向があるので、学校に引き寄せる方策や、部活動の活性化などが必要ではないか。 ②以前に比べて生徒会の活動が活発化しているのはよいことだ。地域の小学校などとの連携によって、おり充実したものになるだろう。 ③生徒の自主的な活動がまだ少ない。これを教員がバックアップしていく必要があるのではないか。	①安全安心な学校生活を送る生徒が増えており、生徒と教職員の望ましい関係構築ができる。一人で悩まずに相談できる雰囲気を学校全体で醸成することができた。 ②ヘルメット着用者の増加を目指し交通安全意識の向上を図っていく。 ③スポーツ大会実行委員会が機能し、生徒の達成感につながった。また、SEINAN祭も三課程が協力しながら生徒主体で運営できた。各委員会の生徒が集まって協議する時間を作れないことがある。生徒会活動や部活動の活性化が課題である。	①長期休業後の生徒の様子をよく観察し、安全安心な学校生活を組織全体で見守っていく。人権研修等で意識を高める。 ②自転車の安全点検やヘルメット着用を呼びかける等、生徒の安全意識を高める取組みを強化していく。 ③生徒会本部役員の生徒を中心に据え、生徒会活動をより良いものにしていく意見を吸い上げ、生徒の主体的な活動につなげる。 ④委員会の日程や時間設定を工夫するなどし、活動の場を増やす。
3	進路指導・ 支援	○高校生活の意義を明確化し、キャリアを適切に形成していくた	①三課程共同で複雑化する進路指導における課題の発見と集約、課題解決方法を洗い出し、解決	①三課程で定期的に情報を共有することで共通する課題を洗い出し、解決	①三課程での情報交換が有効に機能し、共通する大枠の課題の把握と具	①調査書発行・面接指導・推薦選考に係る様々な事案など各課程で挙がった課題を共有し、実態	①課程間の課題意識のバラつきが大きく足並みを揃え難いが、各課程の実情に合わせて優れた点を採用する	①働く事を意識したキャリア教育が必要ではないか。地域の等身大の社会人の話を直接生徒が聞く機会とイ	①職業体験などのガイダンスは生徒が希望する分野別ですでに行っており、生徒は積極的に取り組んでい

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	めの支援を行う。 ○複雑化する進路選択に対応し、生徒一人一人が日々の学習や活動に意欲的に取り組めるよう支援する。	策定する。 ②早期における自己の将来設計を通して、生徒一人一人が日々の学習や活動に意欲的に取り組めるよう支援する。	法を探る。 ②進路実現を支援する機会を数多く設け、学校生活における学習意欲を高める。	体的な解決策の検討につながったか。 ②進路決定過程において、概ね当初の計画通り進路講演会やガイダンスなどを組み入れ、生徒の職業理解・進路選択の一助とすることができた。	の把握や対策を検討した。 ②生徒の実態に合わせて、概ね当初の計画通り進路講演会やガイダンスなどを組み入れ、生徒の職業理解・進路選択の一助とすることができた。	など情報共有を継続する。 ②進路選択の機会が学校生活への取組の改善に繋がっていないことが課題だ。また進路座談会はよい試みだ。 ②保護者が教員と協力する体制は必要である。新たな方策を考えるべきだろう。	ンターンシップ教育が重要だが就業に直接つながっていないことが課題だ。また進路座談会はよい試みだ。 ②保護者が教員と協力する体制は必要である。新たな方策を考えるべきだろう。	る。ただし部分的な体験のみであり、その職業の現実や厳しさにまで理解が及んでいない。長期的な視点での職業教育を試みたい。 ②保護者が進路選択に関心を持ち、積極的に関わるよう促す方法を検討する。	の分野では本校のOBやOGを招待して話を聞く企画を組むことを検討している。実施可否を含めて具体的に調整していく。 ②保護者説明会での説明を手厚くするなど、保護者のニーズを踏まえた情報の提供を心掛ける。
4	地域等との協働	○社会に開かれた教育課程の実現に向けて、地域等と連携した教育活動を推進する。	①地域貢献活動を推進し、地域への情報発信を行うとともに、地域との相互理解を深める。	①クリーンウォーク等の地域貢献活動を通じて、地域と連携するとともに、地域へ学校の教育活動を発信する。	①クリーンウォーク等、地域連携活動を実施し、地域に学校の教育活動を発信できたか、またその活動により地域と連携できたか。	①クリーンウォークを9月の暑い時期から11月の行事に変更して実施した。	①クリーンウォークを11月だけの実施に変更したため、年次で分担する地域を工夫して重ならないようにしたい。町内会の掲示板や回覧板での周知は引き続きお願いしていく。また、クリーンウォーク以外の新しい形態での地域連携の形も考えたい。	①クリーンウォークをはじめとし、各種学校行事についてもっと近隣自治会などの広報を充実させる必要がある。その他、地域の祭りや防災訓練などに生徒が参加することで、よりよい地域との連携が図られるだろう。	①クリーンウォークの内容・日程について、地域に広報できた。地域と相互に生徒に限られた活動でも構わないでの、地域の方や地域の小学校・幼稚園等と交流できる活動を模索する。
		○学校の魅力・特色の校外への情報発信を推進する。	②柔軟で多様な学びのシステムをわかりやすく情報発信していく。	②課程間で連携しながら、ホームページ等の情報発信の場や説明会等の充実化を図る。	②ホームページ等の情報発信の場を充実させ、説明会等の行事を三課程で連携しながら取り組めたか。	②8月・10月・12月に全日制の説明会を実施し、中学生に向けて本校の学びのシステムや入学者選抜についてわかりやすく説明した。	②ICTの活用はすんでおりホームページを昨年度よりは情報発信できたが、来年度はさらに充実させたい。	②全公立展、県央西地区合同説明相談会に加え8・10・12月に説明会を実施し、中学生に向けて本校のシステムや入学者選抜について平易に説明した。ホームページでの情報発信をさらに充実させたい。	②多くの中学生に志願してもらえるよう、学校説明会に力を入れるとともに、他グループとも連携して、魅力ある学校づくり・広報に力を入れていく。
5	学校管理 学校運営	○生徒が安全・安心に学校生活を送れるように教育環境を整備する。 ○教員の働き方改革をさらに進め、実践的な防災訓練を実施する。 ③学校の特色を生かしつつ効率化や職場環境改善を進めること。	①校内の美化・安全確保に常に留意する。 ②有効な防災マニュアルの作成を進め、実践的な防災訓練を実施する。 ③学校の特色を生かしつつ効率化や職場環境改善を進めること。	①「調える」をキーワードとして教室や食堂の机椅子窓カーテン、ゴミの分別、廊下など校内全体の美化・環境整備への取組みを進めた。 ②危機管理マニュアルを策定するとともに厚木市・近隣自治会と連携・協議して地域防災活動との連携は進んだ。 ③衛生委員会等を活用し働きやすい環境づくりを検討する。	①教室や食堂の机椅子窓カーテン、ゴミの分別、廊下など校内全体の美化・環境整備の塵埃やポイ捨てなどの状況は変化したか。 ②危機管理マニュアルを策定するとともに厚木市・近隣自治会と連携・協議して地域防災活動との連携は進んだ。 ③働きやすさが向上したか。	①ペットボトル放置など校内のゴミは明らかに減っている。授業開始前の机中の確認でも忘れ物やゴミは減っている。 ②県立学校熱中症予防ガイドラインを改訂版へ差替えた。「荒天時の対応について」を変更周知したのを受け危機管理マニュアルの加除修正を行う予定である。 ③衛生委員会でアンケートを行い職場環境改善や業務の効率化が進んだ。	①生徒の美化意識が向上している一方で窓・カーテン等不十分な面もあり、三課程共通の取組みとして推進できるかが課題である。 ②マニュアルの年度更新は労力を要し進まない。可能な範囲で実効性のある更新を今後進める。地域連携に着手できず、端緒となる機会を模索中である。 ③毎月の不祥事防止研修などの機会を活用し、引き続き働きやすい職場づくりに取り組む。	①生徒が自らの学校であることを強く意識するようになることが環境整備につながる。生徒の自主活動を活性化させることができることが生徒の意識高揚につながる。 ②マニュアルの年度更新は労力を要し進まない。可能な範囲で実効性のある更新を今後進める。地域連携に着手できず、端緒となる機会を模索中である。 ③毎月の不祥事防止研修などの機会を活用し、引き続き働きやすい職場づくりに取り組む。	①クリーンウォークの実施にあたって地域へ事前に情報発信できたが、この機会のみに留まってしまった。近隣自治会への周知を徹底し、より効果的な運用につなげる必要がある。 ②危機管理マニュアルの見直しを行った。その中で蘇生ガイドラインを最新版に変更するなど、掲載されている情報を最新のものへと更新した。現状に見合った更なる見直しが必要である。 ③まだまだ改善すべき課題があるので、衛生委員会を有効活用してさらなる改善をしていく。

